

桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 34 号

発行日 2015.05.16

発行者 桜 船 会

発行責任者 萩原大義



青磁に魅せられて 安西良矩

池から陸へ 和田精二

会員紹介：名人・達人・超人（その2） 近藤信幸 佐藤顕也 小泉登夫

福山敬二 石井良雄 原 正樹 竹谷康生

「川柳」始めました 二木盈行

関連会社からの情報：納税資金準備は大丈夫？ メルゴ保険サービス（株） 武田理恵子

行事報告：横浜港クルーズと三菱みなとみらい技術館見学 沼田孝治

同好会：ハイキング同好会 富山勝己

事務局だより、編集後記 事務局

▲横浜港北水堤灯台（通称「赤灯台」）横浜港クルーズにて／写真提供：デジカメ同好会・桜井貫智

青磁器との出会い

若い頃からセラミック類には興味を持っていましたが、陶磁器に特別な興味を抱くようになったのは30年ほど前からです。それは大阪へ出張の折に立ち寄った大阪市立東洋陶磁美術館の旧安宅コレクションの青磁陶磁器との出会いからです。その青磁器の地肌からかもし出す神秘的とも言える奥深い秘色に魅了されました。それ以来、台湾訪問時には台北の故宮博物館へ、韓国訪問時にはソウルの国立中央博物館やサムスン美術館へ立ち寄り、北宋青磁や高麗青磁を見て回りました。特に韓国へは毎年開催される利川市の陶磁器博覧会に何度か行き現代陶芸家の高麗青磁の作品群を見て刺激を受けました。

大人の泥遊び開始

時間がとれるようになった9年前、念願の陶磁器を自分で作ろうと陶芸教室の門をたたきました。そして陶土を捏ねくり9年経過、見るのと作るのとは大違いであることを知りました。やっと懂れていた「青磁の壺」や「志野茶碗」などを作陶できる入り口レベルにはなりました。しかしやればやるほど奥が深いことを知り、思い描いた鑑賞に堪える作品作りなどまだまだ当分先のようです。

陶磁器は、土、成形、釉薬、彩色、焼成と作陶過程の選択制御因子が多く、それが複雑に絡み合い独特の陶磁器の地肌の色合いを決めています。これらの表色メカニズムはある程度シミュレート出来そうですが、最後は出来上がってみないと分からない意外性が残ります。これがまた陶芸の奥深い魅力かと思っています。



「河合寛次郎風青磁偏壺」

先人の美意識に共鳴

もともと日本の陶芸の先人は作品に対して寛容な美意識を持っており、作製中、焼成中、使用中の諸変化に対して懐の深い美意識を示し偶然の産物にもそれを作品の景色として価値を見いだす独特の陶芸道を生み出してきました。この美意識は完全な製品を重んじる外国には無い美意識であり、“ワビ・サビ”にも通じているようです。

成形や彩色技法などプロの技に比べるまでも無い趣味で陶芸をするアマチュア陶芸家にとって、この美意識は有り難い共鳴すべき美意識です。あれこれと試みる作陶過程をまず楽しみ、次にその中から世に2つと無い独自の名品(迷品か?)を作り出し、それが自己の審美眼に少しでも触れるように精進し楽しんで行く・・・と勝手に解釈しております。



「備前緋襷酒器」



「赤粉流し掛け青磁大皿」

しかし作品への家族の評価は、歪んでいる、重い等々の厳しい評価がお決まりです。当分の間は意に介さず、歪んだ器で一杯のひととき、これを至福の時間として楽しんで行こうと考えております。

桜船会の行事に長いこと参加していない会員がこういう場に顔を出すのは何やら気が引けますが、たまには変わった話題のご提供も宜しいのではないかと勝手に解釈させていただき、現在関わっている 2 つの NPO 立上げ活動についてご紹介いたします。



辻堂海浜公園で行っている体験会の風景

■その 1、ユニバーサルカヌー体験会

ユニバーサルカヌーというのは勝手につくった呼称ですが、高齢者や障害者も含めて、誰もが身近な場所で安心して楽しめるカヌーを意味します。「自宅に帰った障害児たちが近所の子どもたちと一緒に遊ぶ場所がない」と語った養護学校校長の言葉に触発され、県立辻堂海浜公園内の小池にそのカヌーを浮かべて始めたユニバーサルカヌー体験会が今年で 9 年目を迎えました。8 年もたつと、開催回数 125 回、体験者総数 30,000 人、障害児の体験者数 900 人（延べ）という規模になってきました。年間 15 日程度とはいえ、結果的に障害児が健常児と一緒に遊べる環境が辻堂の海辺に定着しつつあります。取りあえず最初の目標を達成しましたので、体験会を支えている地域ボランティアへの運営移管を次なる目標として、ただいま汗をかいております。

このプロジェクトでは 2 つのことにこだわりました。1 つ目は、本物志向のモノづくり。市販カヌーと同じ材料と成型法（回転成型）によって 35 艇を工場生産。そのカヌーを改造した障害児のための特殊艇を何艇も製作した結果、8 年間の体験会で乗艇できなかった事例なしという予想外の成果がありまし

た。2 つ目は、予算的に自立可能なイベント。体験料（15 分 200 円）の総額から諸経費を引いた残金を交通費と謝金に還元する仕組みづくりに注力、目標の 1 時間 500 円支払いまで、あと少しのところまで来ました。

昨年から今年にかけて、キッズデザイン協議会会長賞や神奈川県公園協会賞を受賞、ようやく市民運動として評価されるところまで来たようです。年間 15 日間ほどを河童のごとく池で過ごしてきましたが、流石に自分の歳を考えると、そろそろ陸に上がる潮時なんですね。長期間沢山の人々に支援願ったことに対し感謝の念に耐えません。ここまで続いた理由を振り返ると、障害児たちに背中を押されたからか、自分が奇人変人なのか、まことにビミョーな問題であります(^_^;)

■その 2、湘南の歴史文化プロジェクト

逆に、カヌー体験会の支援者に引きずりこまれたのが、湘南の歴史遺産や文化遺産を市民感覚で守っていこうという NPO 活動です。

湘南は縄文時代以来の歴史や文化の宝庫ですが、ご多聞にもれず、時代と共に忘れ去られる歴史・文化遺産も多いようで、そうした遺産を再認識し守っていくことに異論はありませんが、ネット投票を主軸に展開していく運動と聞くと支援しようにもいささか心もとないし、ユニバーサルカヌー運動の経験から、こうした非営利組織の大変さも知っているため、距離を置いて支援を始めました。湘南という呼称は、山の手や下町同様にあくまで感覚的な領域名ですが、いったい誰が最初に湘南と言い出したのか、どこからどこまでが湘南なのか、時代によって湘南を示すイメージ領域に変化はないのか等々、尽きせぬ疑問が湧いてきます。不思議なことに誰も動かないため、疑問を解くために図書館の資料室に通う一方で、神社仏閣・石仏等の散歩ツアーに参加したり、郷土史家、考古学専門家の説明を聞いたりしながら「湘南史年表」をつくっている内にいよいよ湘南の虜になり、気が付けば NPO 団体のど真ん中。またまたビミョーな問題に直面しておりますが、路傍の庚申搭をなぜながら、最後に落ち着く先はこの辺りなんだなあと妙に悟った気になったりしている今日の頃であります。 □□□

会員紹介

桜船会のモットーは「いきいきライフ」です。ここでは趣味を超えた「凄ワザ」を持つ会員や普通の「いきいき」を超えたスーパーな会員を33号に続きご紹介いたします。

私の絵作雑記

近藤信幸

軽率に寄稿 OK したがフーテン的雑記でしかなくご容赦願う。寄稿諸氏の様な研鑽努力も師事学習も無く唯心趣くままの絵作20余年、暑い寒いや雑事で直ぐ休み、気向けば没入の勝手道楽で年一度の＊出展は続く。＊「蒼」展／高知市

終始風景画題で絵具は簡便理由の透明水彩、淡色の多重重ね滲みの手法に耐える厚手画紙。画題も曾てはゴビ砂漠・カラコルム山麓などの広大時もあったが転機あって以後は郷里他の今は忘れられたような地の静穏の里の心惹かれる古屋・清流・草木・道を描く。僻地記録の意なく唯そこを過ぎた永い人・生活の時間・情景を限りなく愛おしく想いつつその光・影・色彩を執拗に追う。

閑寂情景の秩序に驚かされ、心無き輩に穏やかに死生感をも語りかける優しい時空の探索も続く。指先一つで瞬時に情報溢れ深い思考失い「時」過ぎる時世に、貧しかったが人も時も穏やかだったと昔を想う老者はとり残されてゆくは古来から世の常、私の絵作もどうやら取残されたものの一つであるようだ。

▼画題「淀み又流れる」

高知・四万十町の河内神社裏の支流



写真俳句

佐藤顕也

“厳しさの中にもゆとり米作り” 顕也

課題の写真や自分の写真に「勝手な句」を添えて仲間うちで月に1回講評しあっています。現役引退後の仲間づくりとボケ防止というところです。



撮影：佐藤顕也

楽しい陶芸

小泉登夫

居酒屋に通いだしてから、酒器や料理の器に興味を持ち、自分で作った器で飲み食いできたらと思っていたら、飲み仲間の紹介で55歳から陶芸教室に通い出し、早くも約13年になります。

「名品」作りを目標に、楽しく元気に陶芸を、人生の友として頑張っていこうと思っています。



写真は定年退職記念として製作した木製帆船で、伊達政宗が建造したガレオン船「サン・ファン・パウティスタ号」です。

「模型づくり」は私の趣味のひとつです。

現在、家庭の事情で神奈川、和歌山と半年ごとの生活をしています。和歌山では比較的自由的な時間がとれるので、4年前から「艦船プラモデルづくり」を始めました。



洋蘭を育てて 30 余年。現在 11 種類 20 鉢を持っています。

春から秋は、手間はほとんどかからず、鉢が乾いたら水をやる程度。冬の管理は耐寒性によって屋外のビニール温室と、室内に分けた管理で。咲く時期は毎年微妙にずれますが 12 月から 3 月くらいまで。

写真は毎年可憐な花をつけてくれるファレノプシスとミニ。



四国お遍路を皮切りに始めた歩き旅も 10 年になります。年 1 回、2〜3 週間、約 30km/日、頭を空っぽにして只々歩くだけです。そうすると、自然と色々なことに会えることが出来る様な気がします。美しい景色、土地の歴史、その土地に住んでいる人、等々、様々な出会いを色濃く味わえます。

何より自分の足で一歩ずつ進むと、考えられない程の遠い目的地に何時かは着ける。このことを実感出来ることが一番嬉しいです。

そんな訳で、環境が許し、体が拒否するまで、こんな歩き旅を続けたいと思っています。

▼下北半島／尻屋崎の寒立馬



私は、高齢者が健康に過ごせるよう居場所・出場所を作るお手伝いをしています。昨年秋、大変喜ばれた「場づくり」の 1 例を紹介させていただきます。

イベントは鎌倉美術館での「ファッションショウ」で、主催は「みらいふる鎌倉（鎌倉市老連）」と「横浜市栄区シニアクラブ連合会」との合同です。

出演者 15 人はプロのアドバイスを受けて自前の衣装に工夫を加え、プロのメイクさんにお化粧してもらい、20 歳は若返って、応援者であふれる晴れの舞台に臨みました。「人生が変わったような気がします」とは、出演者の喜びの感想でした。

▼出演者とスタッフのみなさま



私が川柳を始めたきっかけは、昨年10月、たまたまNHKラジオを聴いていた時、大変面白い川柳番組に出会ったことでした。その番組は毎週土曜日に放送している〈かんさい土曜ほっとタイム〉と言う番組の中の「ボヤキ川柳コーナー（通称ボヤ川）」でした。このコーナーは毎週二つの「お題」が出て、全国のリスナーから川柳を募集し、投句された中から入選作品約100句程がアナウンサーと選者（大西泰世さんと言う女流川柳作家）によって紹介されるコーナーです。面白く、滑稽で、風刺あり、ユーモアあり、思わずニヤリとする句もあって、自分でも是非創ってみたいと言う創作意欲を掻き立ててくれる、そんな番組がきっかけでした。

私は生れてからこれまで、全く川柳と言うものを詠んだことはありませんでした。見よう見まねで詠んではみたものの、その五七五は全く稚拙で面白くないものばかりでした。

一度でいいから「ボヤ川」コーナーで入選するような句を詠みたいと言う願望が強くなり、それを目標に一念発起、多くの川柳の本やネットを読みあさり、自分なりに勉強して「ボヤ川」に投句したのが昨年11月でした。

「ボヤ川」で出題される「お題」はごく普通に使われている単語で、例えば『耐える』『ソフト』『音楽』『次』『暗い』『愉快』等々、これ等の言葉を詠み込むか、イメージする内容の句を詠み五七五にするのです。投句された中から入選句がラジオで読まれ、さらに入選句の中から大賞が5～6句選ばれるのです。

私が初めて入選した一作目が、投句してから三週目の句で、お題は『音楽』

「憎い奴 俺の十八番(おはこ)を 歌う奴」

昔カラオケに行った時、持歌が少い私にとって得意な歌を歌われてしまったことを思い出して詠んだ句です。

入選二作目はお題が『暗い』

「置き手紙 さよならのらが 滲んでる」

これはドラマの一場面を想像して詠んだものです。

入選三作目はお題が『愉快』

「女房を 愉快にさせる 諭吉君」

一万円札は誰もが喜ぶものです。

入選四作目はお題が『叩く』

「無駄口を 叩き 陰口 叩かれる」

人間の心理を詠んでみました。

以上四作品がラジオで読まれたもので、私のような拙い句でも読まれると嬉しいもので、今は「ボヤ川」にはまっています。次なる目標は大賞を狙うことですが、さすがにこれは難しそうです。でも目標は高いほど良いと言いますので頑張ってみて見たいと思っています。



今は自己流で川柳を詠んでいます、やはり基礎から学んでおきたいと思い、この4月からNHKの通信講座を受けることにしました。「明快！はじめての川柳」という講座で川柳のイロハから学習するものです。どんな成果が出るものやら…。

「川柳は 余生を共に する仲間」（盈行）

私にとって川柳は楽しい趣味であり友達であり、またボケ防止には最適だと思います。川柳は人間を五七五で詠むものと言われる。これからは川柳視点で自分を、家族を、社会を見て行きたいと思っています。

□□□

桜船会のみなさま、こんにちは。メルコ保険サービスの武田と申します。

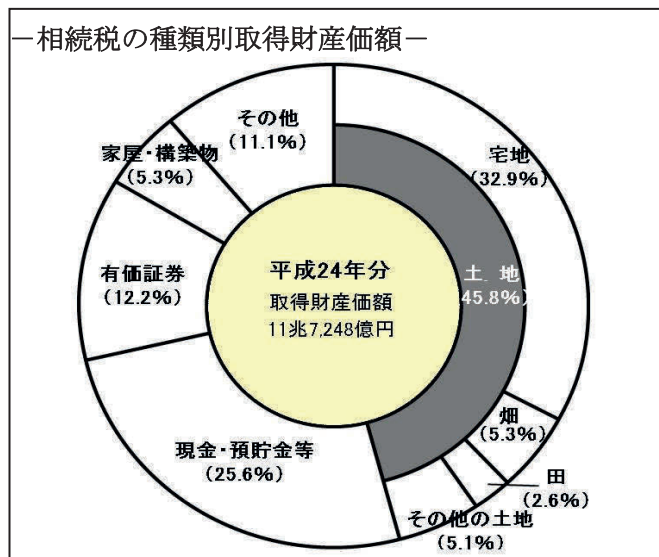
今回は、ファイナンシャルプランナーとしてみなさまに相続税の情報をお伝えいたします。

平成 27 年 1 月からの改正相続税法では、相続税の基礎控除は改正前の「5,000 万円+1,000 万円×法定相続人の数」から 6 割の「3,000 万円+600 万円×法定相続人の数」に下がりました。これにより、相続税を納めなければならない人が増えるとされています。

国税庁は毎年、相続税の課税状況を発表しています。それによると、平成 24 年中に課税対象となる遺産を残して死亡した人（被相続人）は 5 万 2,572 人でした。その相続財産の総額は 11 兆 7,248 億円で、これに相続時精算課税適用財産の価額を加えて債務額と葬式費用の金額を控除し、相続開始前 3 年以内の被相続人からの生前贈与財産額を加算した相続税の課税価格は、前年に比べ 0.2% 増の 10 兆 7,718 億円でした。

平成 24 年中の死亡者数は 125 万 6,359 人（厚生労働省「人口動態統計による」）ですから、相続税の課税された人はその 4.2% に相当します。亡くなった人の 25 人に 1 人が相続税の課税対象になった計算になります。

課税価格は、平成 17 年以後 4 年連続で増加し、平成 21 年にマイナスに転じたものの、平成 22 年から 3 年連続の増加となりました。また、相続税の納付税額は 1 兆 2,446 億円で、前年比 0.6% 減少しました。



次に、相続財産を種類別にみると、土地が 5 兆 3,699 億円（占率 45.8%）、現金・預貯金等 2 兆 9,988 億円（同 25.6%）、有価証券 1 兆 4,351 億円（同 12.2%）となっており、分割・換金の難しい土地および家屋・構築物が財産の約半分を占めています。

その他に含まれる生命保険金等は 4,158 億円でした。課税価格階級別の状況をみると、課税価格 100 億円超の被相続人が 7 人いますが、2 億円以下が 7 割強を占めます。この階級の相続においては、居住用の家と土地が財産のほとんどだという人も多いと思われます。

相続税は、相続発生から 10 か月以内に現金で納付が原則です。財産を処分しないで済むよう相続税の納税資金準備が必要です。

一 課税価格階級別の人員、課税価格、税額一

課税価格階級	被相続人の数	占率	課税価格	納付税額
	人	%	百万円	百万円
1億円 以下	13,448	25.6	1,124,453	16,867
1億円 超	24,842	47.3	3,433,244	156,161
2億円 "	7,028	13.4	1,702,028	158,796
3億円 "	4,296	8.2	1,627,731	229,874
5億円 "	1,380	2.6	808,988	150,215
7億円 "	827	1.6	683,392	143,537
10億円 "	589	1.1	776,517	194,840
20億円 "	96	0.2	226,394	63,050
30億円 "	40	0.1	144,482	43,722
50億円 "	10	0.02	60,286	18,927
70億円 "	9	0.02	76,082	25,833
100億円 "	7	0.01	119,113	49,545
合 計	52,572	100	10,782,711	1,251,366

「平成 24 年度版 国税庁統計年報」より

生命保険は相続税対策に有効です。

生命保険を活用するメリット

1. スムーズに現金化できます。
2. 現金で残したい人にのこせます。
3. 税制のメリットがあります。

※ 詳細はチラシをご覧ください。

お気軽にご相談ください

メルコ保険サービス(株) 大船営業所
担当：武田・森
TEL 0467-41-2110

▼ベイブリッジ



- 1) 行 先 : 横浜港クルーズと
三菱みなとみらい技術館見学
- 2) 実施日 : H27 年 3 月 26 日(木)
- 3) コース : JR 桜木町駅集合
三菱みなとみらい技術館見学
横浜港クルーズ
- 4) 参加者 : 59 名
- 5) 天 候 : 快晴

みなとみらい地区は通常地上 2、3 階の高さで歩くのが普通ですが、人通りの少ない道を選択し、地上 1 階のまま移動したことで、景色がいつもと異なり、とても新鮮な気がしました。

「三菱みなとみらい技術館」は 1994 年 6 月に三菱重工業（株）が、青少年たちが科学技術に触れ、夢を膨らませることのできる場になることを願い設立しました。「試せるテクノロジー、学べる最先端」をスローガンに 6 つのブースがあり、最先端の科学技術を遊びながら学べる、参加体験型のミュージアムです。

ここで 1 時間見学した後、二つ目の目的地である横浜港クルーズの出港地である赤レンガ栈橋に向け歩き出す。途中の汽車道は廃線跡の鉄路に木材を貼った味わい深い道で、振り返ると、横浜みなとみらいの壮大な都市空間が堪能できました。

横浜港クルーズは船を貸切っての出港。美味しい弁当、美しい女性ガイド、巨大な船や建造物、横浜港の歴史や景観を満喫する事ができました。機会があれば横浜の隠れた魅力「横浜港クルーズ」を体験しては如何でしょうか。参加者の皆様、お疲れ様でした。

▼湘南平山頂広場にて



- 1) 行先 : 大磯・湘南平 (第 2 回山行行事)
- 2) 開催日 : 平成 26 年 12 月 17 日 (水)、晴
- 3) 活動内容 : 大磯駅から高麗山、浅間山 181m を経て、湘南平に至る湘南アルプスを縦走しました。湘南平で寒風を避けながら食べた暖かい鴨鍋とワインが美味しかった。
- 4) 参加人員 : 5 名

事務局

会員動向

■会員動向（敬称略）

- ・会員数 : 289 名 (平成 27 年 4 月 21 日現在)
- ・平成 26 年度入会者 (10 名) : 新井和行、大澤隆司、片木孝至、栗坂伸継、田中準一、伏見信也、村上篤道、杉山公康、吉田義雄、山田三郎
- ・逝去 (6 名) : 大盛真次、二見喜一郎、伊藤 弘、三宅 隆、鈴木良春、中条光男
- ・退会 (4 名) : 高橋康夫、福田一進、大野智彦、中島新一

■編集後記

33 号に続き「会員紹介」の頁を設けました。秋の懇親会には、皆さまが作品を持ち寄る文化展ができればいいなと思っています。

関連会社にご協力いただき、役立つ情報を掲載することができました。活用ください。

編集責任者 : 藤本孝信

編集委員 : 桜井貫智 馬場景一 沼田孝治

印刷所 : (株) さんこうどう